
とある系はちょっとアニメ見たただけなんだが、

アキスマン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある系はちよろつとアニメ見ただけなんだが、

【Nコード】

N1601Y

【作者名】

アキスマン

【あらすじ】

題名の意味は私は素人ですので間違いとかはイロイロ教えてくださいということを表している。内容はぱっと見良くありそうな話だが、結構主人公の考え方が変わってるなー、友達にはなれそうになりタイプだ。と思ってくれたら満足です。

ここは別にすっ飛ばしてくれてかまいません。(前書き)

どもーアキスマンです。名前の由来は聞かんでください。

ここは別にすっ飛ばしてくれてかまいません。

わたしの名前は。。。。実名は出せない。出せるはずがない。私は平凡な家庭、、よりはちよつと裕福な家庭に生まれ（実話）、小中一貫の学校でもつともいじめられている人として有名人になり（実話）、高校では友達が出来ず、勉強も最悪なことから家族関係も崩壊しかけ（全部実話）。そんな感じでやってきた俺に人生最大の転機が訪れた。

車に跳ねられた。

「さて、ここはどこかな？」

目が覚めると周りは真っ白な世界。どこを見ても白白白白、これだけ白いと逆に何もない虚無の空間として認識してしまいそうだが、虚無ではなくとにかく白いのだ。

「いかん、どうでもいいことに気がいつてしまった。これだからオレは~~~~なんだよなーでもまあ~~~~だしあのマンガでも~~~~そうそこで主人公がもう一人の主人公と~~~~つまり安心院さんにはそういう意図があったのか。」

いかんいかんいかん、また話が歪曲してしまった。

「ちよつときみ。」

「ん？」

いきなり声をかけられた。振り向くとそこには、、、、、、、？

「まったくやつと気づいてくれたか、さっきから私が何度呼びかけてもまったく無反応だったからねえ、一生気づいてもらえないんじゃないかとヒヤヒヤしたよ。」

どこかであつたことのある顔だ。いったい何処で???

「まあいいかそんな話は、実は君に言わなければいけないことがある。受け止められないかもしれないが聞いてくれ。じつは君は今日午後3時13分に交通事故で死んだんだよ。」

「そんな事はわかつている。」

「え、ええええ？ああそうですか。」

なんだこの子は、いつもの人達と違う。

「ちなみにその原因は私でして、、、」

「そんな事はわかつている。いいから要件だけさつさと言え!!」

「ええええええええ???」

自分にはその時、前世？の記憶とも言つべき何かが自分の中にある事を自覚していた。簡単にいうとめだかボックスの世界で色々やかしちやつた事が全て記憶にあるのだ、というかいま思い出した感じ。女性は慌てていたが腹でもくつたのかあの条件を出した。

「実は貴方には転成してもらいます。場所は言えませんが、貴方がよく知る世界です。そこは科学と魔術が、、、」

「あの、もうわかったんですけど、」

「ああ、やっぱりわかつちやいますよね！そこで貴方にはチートな能力を3つプレゼントします。どんな物でもどんと差し上げましょう」

さあて、いったいどんなチートが出るのやら、向こうのキャラがかわいそうになってきました。いつもの事とはいえつらいですう

「よし、決まった。一つ目は、修復能力ですね。時間的な意味合いで物を修復するやつです。人が死のうが物が壊れようが元に戻せるやつです。二つ目は空間収納能力。一言でいうと四次。ポケットみたいな物ですね。」

そらきた、これはまた個性的ではあるけど十分チートね、こりゃ本当にひどい事になりそうだね。

「そして三つ目は、、、、、、、です。」

「え？」

なにそれ、そんな事、今まで誰一人としてそんな事を願う人間はいなかった。私だけじゃない。いままでの転成数は何十万も超えるけれど、そんな事を願う人間なんて、、、、と言っても別に対したことじゃないんだけどね。珍しいやつもいたもんだねくらいの感想だったわ

「まあいいわ、早く準備しなさいいますぐ転成するわよ。」

「どうしてもいいけど口調が段々女っぽくなってるね。」

「黙れ。」

その女性が手をかざした瞬間、物凄い立ちくらみ？が起きた。それに逆らわず僕は逝った。

意味の分からない名言集（前書き）

誰かールビの振り方がわからない教えてくれー

意味の分からない名言集

俺の名前は紺野 柁木、無論これはこの世界での名前であって実名ではない。そして俺は今監禁されている。え？なぜかって？この全容を話そう。

まず俺は学園都市で世界に八人しかいないレベル5の第八位、タイムラゲナー返送と言われている。そして俺の特技は、

その？死者を生き返らせること。たいてい至福を肥やした幹部が暗殺された時とか、死んでもらっては困る貴重な情報を持った人間とか、実験の失敗作の再利用とか、

その？様々な物の時間を巻き戻せる事からあらゆる実験もとい事後処理をすること、つまり使い物にならなくなった大切な機能を持ったPCとか、ぶっ壊れた街の隠蔽とかもよくやるんだよなあ。

そしてその？その？と似てるがちよつと違う。隠蔽された物の時間を戻して様々な情報を暴くこと、たいてい派遣争いとか誰かを失脚させる時によく命令されることだな

まあ毎日そういう事を仕事としてやってきたもんでそりや恨まれるわなあ、だったら殺せばいいじゃんと思った方はまだ甘い。なぜなら俺の周りには一方通行のように体全体に能力がかかっていて、死んだ直後に数秒前の状態に戻るようになっていて。また、何かしらで能力を封じられて復活出来なくてもそれが解けた瞬間に体が元に戻るため俺を殺しても殺せない事からゾンビだのアンデットだので親しまれ？ている

ちなみに第八位になったのもその能力が余りにも上の連中の役に立つからである。というのが主な原因で俺は捕らえられてる訳だな。殺せないから捕まえるしかないという事だ。ちなみに今は強化ガラスと鉄格子の部屋の中で鎖で何重にも巻きつけられた上で四肢を壁に埋められている

「へーい、ここから出してくれよーそろそろ次の仕事の時間なんだけど、あと十分しかねーよ。へいそのにーちゃんなんとかしてくれよ。(; 旦、A」

暇で暇でしようがなかったから部屋の外で見張ってたガタイのいい兄ちゃんに話しかけた。

「黙れ。」

おりよ？向こうをむいたまま突っ返されてしまった。これはもしか

「そのガタイのいい兄ちゃん、俺の事恨んでるだろ。」

「てめえ」

こちらを見る目が変わった。というか睨んできた。

「できれば話してくれないかなあ家族関係？それとも友人関係とかなあ、」

また怒る態度を取ると思っていたが少し違った。

「……俺を舐めるな。俺はこの仕事に命を掛けてるんだ。これ以上犠牲者を出さないためになあ」

「なぐるほど」

僕には彼の言いたい事はよくわかる。なんてったって俺の仕事は汚職にまみれ、善人を食い物にしてきたきたない人間を救ったり、尻拭いをしてきた人間だからな。つまりこの世はハガレンでいう等価交換。誰かが得をすれば誰かが損をする。人を100人救えば誰かが100人地に落ちる。たとえ世界が変わってもそれだけは変わらなかった。

「まあ、君がどんな損をしたのかは知らないが、ここから出させてもらうぞ。俺の仕事が残ってる。」

「無駄だ、あんた自体にたいした力はないはずだ。その拘束は外せない。それに確かに俺はお前を恨んでるがあんただって自分からあんな奴らを自分から救いにいってる訳じゃねえだろ。なんかの事情があるとか!!」

ああ、そうか、確かに彼は俺に対して恨みを持っていたようだ。だがそれ以上にこの世にひどい人間はいないって思い込んでるタイプの人間だったんだなあ。とても素晴らしい正しい考え方だ。そういう考え方の人間はとても好きだ。

「だが違う。俺は自ら進んで人を助けている。この言葉に嘘偽りはない。だが勘違いするなよ。金のためとかそんなじゃないぜ。」

ガタイの良い兄ちゃんがなにか反論しようとした時。紺野のいる部屋はまるでミサイルでも落ちたかのように吹き飛んだ。そしてしばらくして煙の中から無傷で彼が出てきた。

「な、いったい何をした！！」

見張りは身体中擦り傷だらけだったがたいした怪我はしていなかった。

「何もしてねえよ。という訳で拘束は外れたからすぐに仕事にいかせてもらうよ。」

「どうしてもいくのか、お前が人を救えば救うだけそれよりも多くの人間が悲しむつてのにか、ああ？」

「それでも行くさ、俺には俺の信念がある。お前にもあるんだろう？ だったらその信念を貫きな。俺を捕まえる事で、犠牲者とやらが減るんならな。」

心に響いたその言葉、その時の俺にはまだ理解できなかった。そして今後も永久に理解できないだろう。byガタイの良い人

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1601y/>

とある系はちょっとアニメ見ただけなんだが、

2011年11月3日01時12分発行